

## 第4回 河合隼雄先生追悼記念シンポジウム 報告

## 河合隼雄・鶴見和子と京都文教

## — その宗教性をめぐって —

シンポジスト：ロバート・ボスナック（元ニュー  
ポート研究所所長、サイバードリ  
ムワーク主幹）

濱田華子（山王教育研究所）

樋口和彦（本学元学長・名誉教授）

司 会：高石浩一（本学臨床心理学部教員）

日 時：2010年2月24日（水）13:00-14:30

会 場：京都文教大学 弘誓館 G102 教室

2010年2月24日13時の指月アワーの時間  
に本学 G102 教室において、京都文教大学の設  
立と発展に大きく寄与された故河合隼雄、故鶴  
見和子先生のご業績を偲ぶシンポジウムが京都  
文教大学臨床心理学部 河合隼雄追悼記念式典  
実行委員会と、京都文教大学人間学研究所共同  
研究プロジェクト「個人の思想形成と蔵書の研  
究—京都文教大学図書館所蔵の鶴見和子文庫を  
手がかりとして—」の共催で開催された。シン  
ポジストとしてロバート・ボスナック（元ボス  
トンユング研究所所長、サイバードリームワー  
ク主幹）、濱田華子（山王教育研究所）、そして

樋口和彦（本学元学長・名誉教授）が招かれ、  
本学特別顧問だった元文化庁長官故河合隼雄  
先生、晩年を宇治のゆうゆうの里で過ごし本学に  
貴重な文庫を寄贈された故鶴見和子先生の両先  
生方の本学へのご貢献、とりわけその宗教的な  
側面についてのコメントを頂いた。

今回は特に、1992年にモスクワで開催され  
た国際会議「『黙示録』に向き合う：権力のカ  
リスマと聖戦」を主催したロバート・ボスナッ  
ク先生から、鶴見先生のご発表の際に、同席し  
ていたダライ・ラマ14世が感激のあまり落涙  
していたなど、貴重なご報告をいただいた。ま  
た、その翌年に催されたアムステルダム国際  
会議における鶴見先生のご発表をもとに、その  
思想の背後にある勇気を称えるご報告がなされ  
た。さらに友人である河合隼雄先生との交流に  
ついて言及された。

モスクワでの国際会議に同行された濱田先生  
には、鶴見先生との会話から導かれたアミニズ  
ムというキーワードをめぐって、鶴見先生の思  
想の背後にある考え方への言及をいただいた。



ロバート・ボスナック先生



濱田華子先生



樋口和彦先生

ボスナックと河合隼雄両先生の友人である樋口先生には、河合先生の宗教性に関する深い省察と、鶴見文庫が寄贈されたことについての意義に関する、本学の未来に向けた力強いメッセージをお話し頂いた。

学休期間にもかかわらず、一般参加者を含めて100名近くの方々にご来聴頂き、好評のうちに成功裡にイベントを終えることができた。なお、内容の詳細については臨床心理学部紀要にて報告する予定であるが、例によって参加者のコメントをもって簡単な報告に代えたい。

- ・ボスナック先生のお話が、「影」や「中空構造」など、河合先生と鶴見先生の功績の中でもより宗教的な内容の部分が多く、以前宗教学で学んでいたのが聞き易かったです。また、「聖戦」と聞くと、イスラム教でのことだと思ってしまっていたのですが、日本の天皇の権限を使用したのも「聖戦」にあたるという見解に、なるほどと感じました。

(臨床4回女子)

- ・今は亡き河合先生や鶴見先生の本学との関わり、また海外での活動の話などを聴けて勉強になりました。お会いしたことのない我々にとっては想像することしかできませんが、近くで見てきた方々から聴くお話で、お二人の「信念」のようなものが伝わってきたように思います。(臨床M1女子)
- ・命なきもの、植物や物に対しても、命あるもののように接しておられたというアニミズム的感覚を、鶴見先生は持っておられたというお話は、とても印象深く残っています。また、河合先生に関するお話の中で、一方向からの見方しかない者をととても嫌っておられたというお話も、考えさせられるものがありました。図書館にある鶴見先生の文庫に対する見方が変わった一日でした。(臨床女子)